




【様式1】外国人の子供等の就学に関する検討会ワーキンググループ①に係るICT活用事例

校種・学年	小学校・第6学年
教科・単元名	社会科・歴史「一緒に年号をおぼえよう」
事例の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他校にいる同じ母語を話す児童とオンラインでつながり、母語を交えながら、難易度の高く抵抗感を抱きやすい日本の元号への学習意欲を高め、課題を一緒に取り組む。</li> </ul>
学習展開	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○自己紹介(A小・B小)</li> <li>○年号を覚えることの大切さについて、中学校の学習への系統性を含めた意義を伝える。</li> </ul> </li> <li>2 年号クイズを出し合う。(A小⇔B小) <ul style="list-style-type: none"> <li>○【A小より】年号の漢字を意識させる問題 (図1) 問題「同じ漢字が使われている年号は・・・？」 答え「令(和)と昭(和)」「(平)成と(平)安」「(安)土桃山と平(安)」</li> <li>○【B小より】資料を示し、それから推察される年号は(図2)</li> </ul> </li> <li>3 クイズの感想を伝え合う。</li> </ol> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="199 831 571 1111" style="text-align: center;">  <p>図1 (A小より出題)</p> </div> <div data-bbox="603 831 991 1111" style="text-align: center;">  <p>図2 (B小より出題)</p> </div> <div data-bbox="1023 831 1394 1111" style="text-align: center;">  <p>図3 (A小から見た画像)</p> </div> </div>
活用したアプリ 機器等	<p>オンライン会議アプリ(GoogleMeet) 一人一台ICT端末(Chromebook) プロジェクター・WEBカメラ(広角カメラ)</p>
ICT活用の効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介の後、画面越しではあるが、お互いに名前呼び合うことができ、交流が深まった。</li> <li>・母語や日本語だけでなく、表情や身振りなど、言葉以外の表現を使って、相手に自分の意見や考えを伝えようとしていた。</li> <li>・他校の児童との交流の中で互いにできたことを賞賛し合うことで、「もっと話したい。」「もっと頑張りたい。」という意欲が高まった。</li> <li>・他校の児童どうしと同じ内容を学習することで「年号を覚えなければ・・・。」という学習意識が高まった。</li> </ul> <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインによる協働的な学びを実施するためには、授業の綿密な打ち合わせに加え、日にちや授業時間の調整などの事前準備が必要である。</li> </ul>
児童の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「最初は緊張したがどんどん楽しくなってきた。また、一緒に勉強したい。」(A小)</li> <li>・「問題作りが楽しかった。B小の友達が正解してくれたのでうれしかった。」(A小)</li> <li>・「どちらの学校も正解できてよかった。A小の人と仲良くなれた。」(B小)</li> <li>・「A小の人たちと友達になれてよかった。また他の学校の人と一緒に勉強したい。」(B小)</li> </ul>